



台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表
台湾協会主催令和4年交礼台湾の会にて

日台稲門会 ニュースレター5月号

2022年5月16日

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター5月号をお届けします。

1. 挨拶（三村達 会長）

春の花々が散り、緑が増して、どことなく人や家の装いも夏らしくなってきました。

少しずつではありますがいろいろな社会活動も動きを見せており、日台稲門会もゆっくりと活動を進めていきたいと考えています。



再び皆様とお会いできることを祈っています。

2. 一般財団法人台湾協会 令和4年交礼台湾の会開催

さる4月29日（金）にホテルメトロポリタンエドモンド「悠久の間」において台湾協会主催の「令和4年 交礼台湾の会」が開催されました。出席者は主催側21名を除き、来賓17名、一般・学生40名の総勢57名。宴会場ではアクリル板の仕切り板を置くなど、コロナウイルスの感染防止対策が行われていました。

来賓には台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、黄冠超教育部長ほか、財団法人

日本台湾交流協会の花木出専務理事らがおられ、日台稲門会からは三村会長、梶山幹事長、相京幹事、小川幹事（東京台湾の会会長として）そして会員の広谷美紗さんの5名が出席しました。



（台湾からの留学生 上左）



（日台稲門会三村会長 上右）



（会場風景）



（演奏）

3. 小笠原先生講演会(日台稲門会主催)関連記事

3月に開催した小笠原欣幸先生の講演の記事で日台稲門会が名前入りで4/13付 Yahoo ニュースに載っていました。田中美帆さんが、台湾在住日本人として何ができるかを小笠原先生の講演で感じたことを記事にしています。

「台湾有事」を起こさないために日本人ができること 在台日本人の危機感 (台湾ルポライター 田中美帆さん)

有事の時に台湾で暮らす日本人にできることはあるのか——そんなことを考えていた矢先に、ひとつのヒントをいただいた。

“台湾選挙の神様”による講演会

3月26日午後、オンラインで講演会が行われた。講師は、東京外国語大学の小笠原欣幸教授だ。テーマは「台湾有事と日台関係」、サブタイトルに「ウクライナ侵攻から見るリスク評価と日本の役割」とある。

早稲田大学の卒業生を中心とした集まりである日台稲門会が春季講演会として企画したもので、ロシアによるウクライナ侵攻を受け、急遽、予定されていた内容を変更した、とアナウンスされた。全体で約150人が参加していた。大多数は早大出身者やその関係者だが、台湾からも10人ほど参加があったという。

小笠原氏は、台湾に詳しい人たちの間では「選挙の神様」との呼び名を持つほど、台湾政治に詳しい研究者の1人だ。著書『台湾総統選挙』（晃洋書房）では、実質的に台湾の民主化が始まった1996年の総統選挙から2016年までの6回の選挙を詳細に分析し、的中させてきた研究の成果をまとめている。

政治の専門家が、現状の国際政治をどう見ているのか、藁にもすがる思いで参加を申し込んだ。

講演時間は質疑を含めて約2時間。1) ウクライナと台湾：類似と相違、2) ウクライナ戦争の影響と教訓、3) 台湾有事シナリオとリスク評価、4) 有事を抑止する日本の役割、4部で構成された。

ウクライナ侵攻がなぜ台湾有事を連想させるのか、ウクライナと台湾の似ている点と違う点を整理したうえで、ロシアという大国による軍事侵攻がどのような影響を及ぼし、またそれによってどのような教訓を得たのか。これら前提条件を整理したのち、「台湾有事」とは具体的にどんな事態を意味し、それに対して日本は何ができるのかについて、提起がなされた。

小笠原氏のまとめによれば、台湾有事とは「中国軍の大部隊が台湾に上陸し、台湾を占領し台湾政府を降伏させること」あるいは「精密誘導ミサイルで軍事施設を破壊。抵抗能力を奪う。サイバー攻撃で電力・通信・交通など生活インフラを遮断。中国のスパイが入り込んで国軍の舞台に反乱やサボタージュ。空挺部隊を台北に降下させ、総統府など政治拠

点を制圧。中国の意向に従う政治勢力が臨時人民政府を立ち上げ」る事態を意味する。

小笠原氏は今回のウクライナ侵攻を「SNS 時代の戦争」と位置づけた。たとえば、ロシア側が流す情報を、具体的な証拠によってフェイクであることを知らしめ、国際世論を味方につけている。ロシアの軍事侵攻が始まってひと月になる 3 月 24 日、ウクライナのゼレンスキー大統領が日本の国会で行った演説も、その一例だ。台湾はおそらくウクライナ以上に効果的に SNS を使い国際情報戦をリードできる。

参加者からは、「台湾を支えるために交流を積極化したい」「台湾についてもっと身近に周りで話していきたい」「（「台湾が抵抗しても無駄」や「台湾有事は虚構」というような）無責任な言説に惑わされないよう気をつけたい」といった感想が聞かれた。

軍事侵攻抑止のため私たちにできること

小笠原氏は、中国から台湾への軍事侵攻は難しいため、今日までできないでいるが、「だからといって将来もないと決めてかかってはいけない」と注意を促す。そのうえで、台湾を専門にする学者や研究者、日台の交流に尽力する関係者、あるいは台湾に関して発信している人たちを「私たち」として、次のように述べた。

「私たちが、もっと台湾のことを語ることが、回り道のようなものではあるけれども、日本の中での台湾認識を高め、『日本は台湾への軍事侵攻を許さない』という世論を形成していく道筋になる」

この言葉に、筆者は大いに勇気づけられた。求められるのは、日本政府はもとより、個々人の日本人も「軍事侵攻は許さない」と鮮明にすることだろう。

中国に侵攻してほしい在台日本人など、1 人もいない。台湾人と結婚した筆者には、台湾人の夫、義理の家族、そして大勢の友人や仕事仲間がいる。台湾に暮らす友人の中には、台湾人との間に子どもをもつ人もいて、そうした人たちは、さらに深い関係にある。

「台湾有事」と文字にすればたった 4 字だ。だが、「台湾有事」と聞いたときに、どうか思い起こしてほしい。文字の向こう側に生きた人がいることを。日本人観光客を迎えていたホテルや台湾料理の店、観光地のスタッフなど、大勢が犠牲になるかもしれない、と

いうことを。日本人が行きたい旅行先は、失われるかもしれないことを。あるいは、台湾生まれの方の故郷や、留学したことのある方、旅行したことのある方の見た人や景色が失われる——そんな事態を誰が望むのか。

ロシアによるウクライナ侵攻の戦況如何は、「台湾有事」に大きな影響を与える。だが、中国が軍事侵攻を行うかどうかは、誰にもわからない。

小笠原氏は「中国は少ないコストで台湾統一を実現しようとしている」という。軍事侵攻は、国際的経済的にも代償が大きい。日中ビジネスも大きな代償を払うことになるに違いない。それがどのくらいの打撃になるのか、今から予想も可能なはずだ。その予想が具体的になればなるほど、軍事侵攻の代償の可視化につながり、それが翻って抑止にもなる——小笠原氏はそう指摘する。

小笠原氏の講演を聞いた後、筆者が決めたのは、まず講演を伝える原稿を書くこと、台湾の人たちのことを伝える原稿を書き続けること、そして夫と改めて話し合うことだ。

この間に、少なくとも、友人からメッセージを受け取った際に抱いていた漠然とした不安は消えていた。少なくとも、まだやれることはある。あとは、それを精いっぱいやるだけ。

1人の声は小さくて届かないかもしれない。でも、声が大きくなったら？ 踏み込むのはだめだと思われるような声にできれば？ まだ軍事侵攻は起きてない。だからこそ、声をあげたい。そして「台湾への軍事侵攻を許さない」と思う人が、1人でも増えることを心の底から願っている。

なお、小笠原氏の講演の動画は、今も YouTube で見られる。未見の方、ぜひともご覧いただきたい。

- ① 田中さん記事 URL <https://news.yahoo.co.jp/byline/tanakamiho/20220413-00291237>
- ② 小笠原先生 HP <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/>
- ③ 日台稲門会講演ビデオ https://youtu.be/Pk4pUK3y_rg



①



②



③

4. 会合、講演会の案内

これからの予定です。皆様のご参加をお願いします。

(1) 日台稲門会年次総会

・日時：6月11日（土）15:00-17:30

総会 15:00～15:40 講演会（*）16:00～17:30

・場所：留日東京華僑総会3階（銀座6-13-6（注）一階がドトールのビルです）

・講演： 講演者 佐橋亮（東京大学東洋文化研究所教授）

演題 『ウクライナ戦争後の米中関係と台湾（仮題）』

◎参加ご希望の方は、下記サイトよりお申込みください。

<https://office.nittai-toumon.com/entry/>

（早めのお申し込みをお願いします）



(2) 東京華僑総会講演会

来たる6月25日(土)東京華僑総会主催にて「華僑が語る華僑の歴史」というテーマで講演会が開催されます。

早稲田大学日台稲門会は「協力」という立場で参画しております。

講師は東京華僑総会名誉会長の張建国氏。

同氏の父、張和祥氏は華僑界において多大な貢献をされ1956-1987年東京中華学校(四谷)の理事長を務められた。

建国氏も父の意志を継いで1987-1999年東京中華学校の理事長を務められ、また教鞭も執られた。

1993年から在日華僑の代表として台湾の立法委員(日本の国会議員にあたる)も3年間務め、日本との橋渡し役として活躍された。

(講演会概要)

- ・日時：6月25日(土) 15:00-17:00
- ・場所：留日東京華僑総会(銀座6-13-6 日台稲門会総会と同じ会場です)
- ・後援：台北駐日経済文化代表処僑務部
- ・会費：2,000円

◎お申込み：oga10.com@gmail.com (日台稲門会幹事小川まで)

5. 台湾からの便り（台北稲門会 齋藤征二さん）

新型コロナでは超優等生だった台湾もこの1か月ちょっとの間に急に感染者が増えて、5月10日は、日本を超える1日で5万人の感染者数を記録しました（日本は4万5千人）。今月も台北稲門会の齋藤さんから情報が入りましたので報告いたします。

新型コロナの域内感染者、10日は5万人超え（5月11日時点）

当局は、4月28日に初めて1万人を超えてから半月弱で新型コロナウイルス感染症の新たな域内感染者を5万780人確認したと発表した。

自治体別では

- ◇新北市：1万6,906人
- ◇台北市：1万283人
- ◇桃園市：7,006人
- ◇台中市：3,346人
- ◇高雄市：2,552人
- ◇台南市：1,774人
- ◇基隆市：1,734人
- ◇宜蘭県：1,279人（以上 千人以上）

ただし、1月からの累積では、軽症と無症状者は37万108人（全体の99.77%）となっている。

感染拡大、6月初めにかけてピークに

台湾衛生福利部（衛生省）中央流行疫情指揮中心は、5月20日ごろから6月10日ごろにかけてピークを迎え、ピーク越えは7月以降となる見込みで、それに合わせて外出時のマスク着用に関する規制を緩和する見込み。水際対策については「医療体制に余裕があれば、緩和しても大きな問題にはならないだろう」としている。

6. 経済ニュース(劉彦甫 記者)

今月も劉彦甫さん（WTSA 出身で東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

■原油高と円安で日本の“赤字化”は不可避なのか

第一生命経済研究所の星野氏に見通しを聞く (4/20 東洋経済)

2 月下旬から始まったロシアのウクライナ侵攻により、原油高がさらに騰勢を強めるほか、3 月以降は円安も急速に進行し、足元では 1 ドル 129 円台と約 20 年ぶりの円安・ドル高水準をつけている。2 つの悪材料の下、日本はどうか。

先頃、経常収支のシミュレーション分析結果をレポートにまとめた第一生命経済研究所の星野卓也・主任エコノミストに今後の見通しについて聞いた。



https://toyokeizai.net/articles/-/583384?utm_source=author-mail&utm_medium=email&utm_campaign=2022-04-21

劉記者の過去の記事一覧 下記サイトを参照

<https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB>



7. 最近の台湾関連ニュース

■米中国防相会談、台湾・ウクライナで応酬 (産経 4/22)

■中華テレビが 20 日に『中国軍が攻めてきた』と誤報。のち謝罪 (産経 4/22)

■台湾、1200 キロ巡航ミサイル 近く量産 上海射程 (産経 4/22)

■TSMC 工場、21 日着工 熊本・菊陽 6 年末から半導体出荷 (産経 4/20)

工場投資額は 1 兆 1 千億円。TSMC から 320 名、ソニーから 200 名出向し、1700 名体制でスタート。

■ウクライナ侵攻 日米中台が注視 (産経 4/15)

	ウクライナ侵攻 (露軍)	台湾有事 (中国軍)
「斬首作戦」	失敗	台湾側は防衛準備
防空網制圧	時間短く不十分	数量も十分も、時間的余裕少ない
侵攻部隊規模	15 万人以上が国境から一斉侵攻	台湾海峡を渡る輸送能力に限界
補給	食糧・燃料・弾薬の補給に課題	露軍以上に困難。「数日」で限界も
統合作戦能力	航空・陸上の連携不十分	海空一体の上陸作戦は途上
非対称戦	米欧の携行式ミサイルに苦戦	米、台湾に武器追加支援は困難
各威嚇	米国・NATO の直接介入防ぐ	米国の介入防げると「誤算」も

露軍の失敗は、「圧倒的な第一撃の重要性」を中国に再認識させた (Wall Street J)

■米超党派議員団が訪台 15日、蔡総統と会談 (産経 4/15)

米共和党のグラム上院議員を団長とする超党派議員団が 14 日夜台北市内の松山空港に到着。台湾は、来訪は台湾支持の表れだと。

■台湾、ゼロコロナから「重症ゼロ」へ 感染拡大、蔡総統も自主隔離 (JIJI.com 4/15)

ゼロコロナ政策を続けてきた台湾だが、3月下旬からオミクロンの感染が拡大しているため、隔離措置を緩和して経済や生活への影響を抑えつつ、鑑定的な医療提供との両立を図る (『台湾方式』)。中国・上海でのロックダウンと対照的。

■安倍元首相、アメリカは方針転換をと (Project Syndicate 4/12)

ウクライナと台湾を比較すると両国の相違点は、①ウクライナは主権国家、台湾は国家として認められていないこと、②台湾は有事の際、アメリカから軍事装備と物資の供給を受けるが (台湾関係法)、アメリカが武力介入するかどうかははっきり言わない (戦略的曖昧) がある。世界情勢が劇的に変化している現在、アメリカは、従来の曖昧政策から中国のいかなる工作からも台湾を守るのだという事を明確に宣言する時が来た。

<https://www.project-syndicate.org/commentary/us-taiwan-strategic-ambiguity-must-end-by-abe-shinzo-2022-04>



8. 台湾映画・ドラマ

■『華燈初上 一夜を生きる女たち』1988年の台北・林森北路の日本風ナイトクラブが舞台の台湾ドラマ (Netflixにて視聴可能)

台湾ドラマの新境地を切り開いた大型サスペンスドラマ。戒厳令解除翌年の台北の歓楽街の日本風ナイトクラブを舞台に、夜の蝶(ちょう)たちの嫉妬や傷心、友情、恋を通して、愛憎渦巻く女の世界がつづられる。今回は3月18日よりスタートした第三部(17~2回)。見ていると知り合いの日本人が出てきそうな気分になります。



(Cinem@rt より)

台湾文化センターでの映画上映トークショー

2000年以降の台湾映画の新しい流れがどのように台湾映画の"いま"に繋がってきたのか、そして"いま"何が起きているのかをお届けする台湾文化センターとアジアンパラダイス共催のイベントシリーズ 2022 台湾映画上映&トークイベント「台湾映画の"いま"～革新と継承～」。

台湾映画上映会

① 第1回『廃棄の城 (原題：廢棄之城)』(4月16日上映) オンライン

易智言(イー・ツーイエン)監督が初めて手がけた長編アニメーション映画。

監督自身によるアフタートークは10月31日までご覧になれます。

<https://vclasstream.jp/tw-movie/#/player?akey=244274b5b2f01268879b1a050c344ebc>

② 第2回『僕たちの歌をもう一度（原題：聽見歌 再唱）』5月21日（土）14時から

台湾の原住民の子ども達の合唱団と、その指揮をとった校長の実話をもとにしたハートウォーミングストーリー <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000111.000042392.html>



① 『廢棄之城（原題：廢棄之城）』

② 『僕たちの歌をもう一度（原題：聽見歌 再唱）』

9. 台湾 in Tokyo 東京タワー台湾祭

台湾を楽しもうという東京タワー台湾祭り。上野公園の方は、会場は広いが春（または秋）に2日間だけだが、こちらは4月初めからゴールデンウィーク終了まで1カ月間のロングランであった。パイナップル付きだったが、味はほかの地域のものとは全く違って、これぞ『台湾パイナップル』という感じだった。



ちなみに上野公園で開催される恒例の台湾フェスティバルは、今年は6月16日からです。（下記）



9. 台湾のヒット曲

在日華僑は80万人、日本国籍取得者は15万人と言われている。全世界の華僑は6000万人。ところで半年ほど前にヒットした黄明志さん（マレーシア華僑）の曲を聴くと、華僑の人たちもルーツである中国大陸に対して一抹の不安を感じているように思える。黄さんが作曲した歌は『Fragile 玻璃心（ガラスのハート）』、『牆外 The Wall（壁の外）』。玻璃心は、口ずさみやすい歌だが、歌えば歌うほど現在の中国を考えてしまう。壁の外は、金門島観光のプロモーションビデオの曲。大陸から引っ越してきた女の子を好きになってしまった男の子。しかし、女の子の親が男の子と接触させようとしない。高い壁越しに手紙や風景を描いた画用紙を交換し合う台湾版ロミオとジュリエット。政治色はないが、誰が見ても、女の子の親は中国政府で女の子は中国の一般人、男の子は台湾人とわかる。両方ともウクライナ侵攻の前に発表されたが、最近再生回数が増えて5000万回に迫る勢い。なお、黄さんが作った『東京盆踊り Tokyo Bon 2020』というプロモーションビデオもあるが、これは、2000年頃のウルフルズの『明日がある』のプロモーションビデオのノリ。

- ④ 【Fragile 玻璃心】 <https://cpopmania.com/bolixin/>
- ⑤ 【牆外 The Wall】 <https://www.youtube.com/watch?v=WCLIFA9SiDI>
- ⑥ 【東京盆踊り Tokyo Bon 2020】 <https://www.youtube.com/watch?v=zhGnuWwpNxl>
- ⑦ 【明日があるさーウルフルズー】 <https://www.youtube.com/watch?v=FdOi2unXIEI>



④



⑤



⑥



⑦

10. 年会費のお願い

2022 年度がスタートいたしましたので、年会費をお願いいたします。
本年度も 3,000 円となっております。

振込み口座

●銀行振り込みの場合

みずほ銀行 六本木支店 (店番 053)

口座番号：普通預金 4448937

口座名義：日台稲門会

(ニツタイトウモンカイ)

●郵便局振り込みの場合

加入者名： 日台稲門会

口座番号： 00130-8-69805

郵便局の場合は、通信欄にもお名前の明記をお願いいたします。

ご不明の場合は、下記までお問合せください。

junichi.kawamura.dir@gmail.com (会計担当の川村まで)

編集後記

先般、ウクライナで昭和天皇が戦犯としてムッソリーニやヒットラーと一緒に並べられたり、ウクライナ支援国リストに日本の名前がなかったことなどが問題になりましたが、これを見て私は、湾岸戦争(1991年)が終了してから11年後の2002年末にUAE(アラブ首長国連邦)のアラビア語新聞に『日本は湾岸戦争時に産油国に協力しなかった』と書かれたため、日本大使館が反論記事を載せて、強く抗議したことを思い出しました。湾岸戦争時、日本ではガソリン、たばこ、酒などの増税をもとに1兆5千億円もの支援をしましたが、侵略された当事国にとってお金じゃなくて軍事的支援がないとありがたみを感じないということだったのでしょう。被害を受けた当事者にとって軍事以外の支援は10年たっても記憶に残りにくいということか。難しい。(橋)